

2025年6月9日
フューチャー株式会社
(東証プライム:証券コード 4722)

GENIAC 採択「日本語とソフトウェア開発に特化した基盤モデル」を一般公開 フューチャー独自の大規模言語モデルにより高い生成能力を実現

フューチャー株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役会長兼社長 グループCEO 金丸恭文、以下フューチャー)は、経済産業省とNEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)が実施する国内生成AIの開発力強化プロジェクト「GENIAC (Generative AI Accelerator Challenge)」^{※1}の支援を受け、2024年10月から「日本語とソフトウェア開発に特化した基盤モデル」の研究開発を行ってきました。この度、本モデルの開発期間が終了し、その成果である基盤モデルを一般公開しました。今後は、評価データセットについても広く公開することで、日本のソフトウェア開発の発展に貢献していきます。

公開URL:<https://huggingface.co/future-architect/Llama-3.1-Future-Code-Ja-8B>

GENIAC

FUTURE

本プロジェクトは、国立大学法人 東北大学 言語AI研究センター 教授 鈴木潤氏、国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 自然言語処理学研究室 客員助教 小田悠介氏、公立大学法人 会津大学 コンピュータ理工学科/情報システム学部門 上級准教授 渡部有隆氏らと共同チームで開発を行いました。

開発した「日本語とソフトウェア開発に特化した基盤モデル」は、様々なプログラミング言語において比較対象となるベースモデルに対し、高い生成能力を実現しました。特に日本語の指示によるソースコード補完能力が優れていることが確認できました。また、本基盤モデルは日本語を対象としたものでは例がないFill-In-the-Middle (FIM)^{※2}をネイティブサポートしました。

既に当社では、「日本語とソフトウェア開発に特化した基盤モデル」の業務適用に向けた検証を開始しています。ソースコード補完に留まらず、ソースコードに対する自動レビュー生成や、仕様書からのソースコード自動生成など、ソフトウェア開発に関わる幅広い領域に対して、高い生成能力の達成に向けた検証を進めます。

検証データ

FUTURE

評価データ	Llama 3.1 8B (ベースライン)	GENIACモデル
HumanEval	0.6311	0.6835(+0.0524)
JHumanEval	0.5061	0.6335(+0.1274)
HumanEval+	0.5872	0.6360(+0.0488)
SantaCoder-FIM (Python)	0.4468	0.5139(+0.0671)
SantaCoder-FIM (Java)	0.3506	0.5478(+0.1972)

フューチャーはテクノロジーをベースに、20社以上のグループ企業を展開するソーシャルデザインカンパニーとして、先端的なAIの学術研究・研究開発を強力に推し進めています。また、主要事業会社のフューチャーアーキテクト(本社:東京都品川区、代表取締役社長:谷口友彦)とともに、構想から実装まで一気通貫で支援するAI コンサルティングサービスを提供しています。今後も、「最先端のAI研究の推進」と「AI技術の社会実装」を強みに、社会課題の実践的解決に貢献します。

※1.GENIAC https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/geniac/index.html

NEDO採択事業 https://www.nedo.go.jp/koubo/IT2_100331.html

※2.テキスト生成タスクにおいて、テキストの途中を補完するように訓練する仕組みで、前後の文脈を考慮したコード生成が可能となる手法

■ 本件に関する報道機関からのお問合せ先

フューチャー株式会社 広報担当：清水、石井

TEL：03-5740-5721

お問い合わせフォーム：https://www.future.co.jp/apps/contact/corp/press_interview_entry.php